交通バリアフリー通信　vol.8
『挨拶や声かけでやさしい社会へ』

中国運輸局では、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの分野において、先進的に活躍されている団体等を訪問し、当事者目線の情報発信を目指して、交通バリアフリー通信を発行しています。

第８回となる今回は、プロジェクトゆうあい理事、NPO 法人日本バリアフリー観光推進機構副理事長、まつえ市民活動支援協議会会長と幅広く活躍されている三輪利春さんにお話を伺いました。三輪さんは、32 年前に交通事故により失明され、現在は盲導犬のアラン君と暮らされています。

【今回紹介するのはこの方！】

三輪利春さん

NPO 法人プロジェクトゆうあい理事
NPO 法人日本観光推進機構副理事長
まつえ市民活動支援協議会会長

これまでの活動、現在の活動について教えてください。

2004 年に「NPO 法人プロジェクトゆうあい」を設立しました。2018 年 5 月まで理事長の職に就き、2 年前に代表を田中隆一さんにバトンタッチし、現在は理事をしています。プロジェクトゆうあいは「このまちに希望の種をまいていこう！」をスローガンに、バリアフリーのまちづくりやバリアフリー観光の推進、公共交通を使いやすくする取組等、様々なことに取り組んでいます。

また、山陰バリアフリーツアーセンターと松江バリアフリーツアーセンターを運営しており、毎年多数の障害者の方が利用してくださっています。私は視覚障害者ですので、特に視覚障害者の方の利用が多いです。来られた皆様満足して帰られます。

私の場合、盲導犬使用者です。島根県の盲導犬ユーザーとボランティアの皆さんとで「島根ハーネスの会」を作っています。盲導犬ユーザーの皆様から補助犬受け入れ拒否の事例を聞いたり差別を受けた事例などをお聞きすることも多くあります。また、松江市の視覚障害者協会の代表

もしていますので、会員の皆様から困り事や要望など、お聞きした事を解決しようと国や島根県、松江市などへ要望書を提出する等活動しています。

その中で、視覚障害に関する理解や補助犬受け入れ拒否などがまだまだ多く、日本バリアフリー観光推進機構主催の鹿児島大会では、ホテルや旅館などで働いておられる方の補助犬受け入れワンポイントと題してお話しをさせていただきました。また、日本バリアフリー観光推進機構の関係で佐賀県から呼ばれ、同じ内容でお話しさせていただきました。

その他には 29 年前から小中高校や PTA、公民館などから、授業や講演でお話しさせていただく機会をいただき、視覚障害について、盲導犬についてのお話をし、心のバリアフリーが広く広がることを願いながら活動しています。

公共交通機関を利用する上で困ることは何ですか。

目が見えないということは、移動弱者であり、情報弱者ですので困る事が沢山有ります。たとえば、バスのカードをうまく挿す事ができなかったり、バス停の時刻表が解らなかったりします。普段出かける所は頭の中に地図を描いていますので、わりとスムーズに移動ができますが、初めて行く所は、頭の中の地図がありませんので困る事も多いです。

たとえば、東京へ一人で出かけたときのことです。羽田空港からタクシーで運転手さんに住所と地図を渡して目的地の建物に行きました。住所と建物がここで間違いない、入り口はまっすぐ歩いて 10 メートルほどですと言われ、忙しそうに立ち去って行かれました。ドアの入り口が解らず困っている時、職員の方が出てこられ、地図を見てもらうと建物が違う事を教えてくださり、すぐに次のタクシーを呼んでくださいました。私の顔はきっと青くなっていたことでしょう。その時は大変ありがたかったです。

会員の方から、相談を受けることもあります。バス停の場所より 2 台 3 台後でバスが止まった時は、降りる時に降りた場所が違うことを伝えていただきたいです。「バス停は 20 メートル右にあります」など声のサポートがあると嬉しいです。また、タクシーを降りる時、障害者手帳を表示するだけでタクシーの運賃割引を受けることになっていますが、今も手帳の中を見て番号を記載される方がおられる事例を聞きました。

３２年前に目が不自由になられたとのことですが、この間に環境の変化を感じることはありましたか。

公共交通機関では環境はとても良くなってきていると感じます。移動時の人的サポートについては、乗車時や下車時にスロープの設置をして頂いたり、駅で職員の方がよく声をかけて下さるようになりました。電車の中で車掌さんに声をかけてもらい、トイレに連れて行っていただく事もあります。また、下車する時もサポートして下さり大変感謝しています。困っている時に一般の方も声を掛けて下さる方が増えてきました。

公共交通機関の連携により一人で出かける事も可能になりました。事前にお願いし、JR～京急線～羽田空港国内線ターミナル駅～羽田空港のスマイルサポートカウンター～羽田空港～出雲縁

結び空港～空港連絡バス～JR 松江駅　のルートを一人で出かけることができました。連携と人的ネットワークにより、離れた所から一人で目的地へ。実際に体験した事により、自信と社会参加に繋がりました。

心のバリアフリーを推進していくために必要なことは何でしょうか。

　私は当事者として関わっていますがお互いが尊敬し合う事が大切に思います。相手の気持ちを考えることも大切です。解らない時は当事者の方に聞くのが一番です。

　今後少子高齢化がどんどん進んでいきます。人口もどんどん減ってまいります。そういった中で、「心のバリアフリーの推進」が大切に思います。

　たとえば、小中学校でお話しする時に、子どもさんたちに、挨拶はボランティアの始まりであること、誰もができるボランティア活動であることのお話をしています。「おはようございます」、「こんにちは」の声かけは小さな子どもさんたちから声が出ると、誰もが笑顔で挨拶を返します。その延長で「声のボランティア」があります。私達視覚障害者は外に出たら困る事が多くあります。困っている時に、「何かお手伝いしましょうか」など声を掛けていただけると嬉しいです。また、危険な時は、「危ないです。盲導犬と一緒に歩いておられる方止まってください！！」などと声をかけ、その方の歩行を止めてください。安全を確認しその方の所に来ていただき、肩や肘を持たせていただき手引きの方法で安全な所に連れて行っていただきたいです。

　小さな子どもさんもやがて大人になります。「心のバリアフリー」がもっともっと広がっていく事を願っています。

　このように、「ひとづくりからまちづくり」へと発展させることを思うと、心のバリアフリーについて幼児期からの教育が大切に思います。

　合理的配慮や共生社会の実現と言う言葉は子どもさんたちには難しい言葉ですが、（「心のバリアフリー」）と言う言葉はすぐに理解してくださいます。また、地域にもっともっと「心のバリアフリー」が広がってゆけば人の心も豊かになり、町がどんどん発展していくと想います。

　私の講演するときのタイトルは「ともに生きる　人は支え合って人になる」です。人は一人では生きてゆけません。失明し沢山の方に支えられて今の自分があります。また、私も誰かの支えを（ボランティアなど）しています。人と人が寄り添い「人」という漢字ができているというお話の中で、皆さんの心のバリアフリーが広がっていくことを望んでいます。「心のバリアフリー」を広めて行くことは共生社会の実現を目指す事、合理的配慮を広く社会に広める事に直接繋がります。

今後の活動について教えて下さい。

2年前に、松江市と共創・協働により、松江市のスティックビル2階に、まつえ市民活動支援協議会を設立しました。今後ますます少子高齢化が進んでいきます。人口も減少していきます。そんな中で、市民活動・ボランティア活動・NPO活動など、活動人口を増やしていくことが目的です。市民活動の推進をする中で、「心のバリアフリー」についても市民の皆様にも広く啓発していきたいと考えています。

！盲導犬アラン君からのお願い！

・話しかけたり、じっと見つめたりしないでください。
・勝手に触らないでください。
・食べ物や水を与えないでください。

ハーネスを付けている時はお仕事中です！
盲導犬を見かけたら、あたたかく見守ってくださいね。
危険な時や、困っている時は声をかけてくれると嬉しいです。

編集後記

バリアフリー観光や補助犬に関する講演など、様々な活動を積極的に行っている三輪さん。穏やかな口調の中に、バリアフリーへの熱い思いが感じられました。

インタビュー中、盲導犬のアラン君は、机の下でじっと待っていました。
とてもかわいいのでついかまいたくなってしまいますが、お仕事中の盲導犬はあたたかく見守りましょう。

インタビュー当日はあいにくの雨模様で、松江城を望むことはできませんでしたが、後日三輪さんが写真を送ってくださいました。きれいですね！